

寶相華

巻頭四方山話

会長 瀬川 雅 数
(昭43年卒)



「忘却の早さと、何事も重大視しない情感の浅きこそ人間の最初の老いの兆候だ」と言ったのは三島由紀夫である。どうも今の私があるような状態である。それに筋肉の衰えがさらに拍車をかけて日常の行動を鈍くする。老いることは避けられないもの、出来ればピンピンコロリと逝きたいものである。残念なが

らそう上手くいかないのが人の世の常である。令和二年はコロナ感染症が世界中で猛威をふるい、多くの人が犠牲になった。今回の感染症は軽症が多いものの、軽症でも急激に病状が悪化して亡くなることの特徴のひとつである。ウイルスによる感染症は治療法が確立されていないために、発生すると世界規模の流行となりやすい。流行すると感染予防対策と病状に応じた対症療法が対抗手段となる。従って対抗手段もその時代に合った対策となり、過去の経験を活かせないのが実情である。

宝相華会 (同窓会) 会報 No. 83

発行者 瀬川 雅 数
編集者 藤原 正義
発行所 県立奈良高校同窓会
印刷所 共同精版印刷(株)

題字「寶相華」は天平時代の国宝「細字金光明最勝王經」より。(筒井寛秀((中11回))収録)

コロナの影響で令和二年はオリンピックの開催延期を始め、あらゆるスポーツ大会や文化活動が延期や中止となった。一般の社会活動も制限され、世の中が沈滞して活気がなくなつた。そのような中で面白い話題もあった。将棋の藤井聡太七段の二冠(王位・棋聖)達成、大坂ナオミの全米オープンテニスの優勝、理化学研究所と富士通が共同開発したスーパーコンピュータ「富岳」の計算速度世界一があった。中でも、藤井聡太や大坂ナオミのような若い人の活躍はコロナで沈滞する中、多くの人に活気と希望を持たせた。令和三年になつてもコロナ禍の影響は私達の社会生活を制限しているだろう。社会生活を制限すれば感染を制御できるが経済は落ち込み我々の生活が苦しくな

る。経済活動を進めると感染制御ができなくなり、あちらを立てればこちらが立たずの状態で今の状況だろう。ウイルスの治療法が見つかるかわクチンが開発されて感染予防ができるまでは、命を守ることを優先して状況に耐えるしか方法はないだろう。

「運命が人間を苦しめるなら人はこの苦しみを責務、たつた一度だけ課せられる責務としなければならぬ」として、課せられた苦しみを耐えぬき、苦しみに向き合った究極状態の人間心理を書いた医師がいた。彼は第二次大戦

でアウシュビッツ強制収容所に収監され、医師ではなく一般の収監者として強制労働に従事し、奇跡的に生還した。そして、その体験を心理学者として分析し「夜と霧」を書いた。人間は自分の未来と共に精神的なよりどころを失うと、精神的に自分を見捨て、身体的にも精神的にも破綻してゆく。苦境を乗り越えていくには未来のよりどころや目的を持つことが必要としている。よりどころは実在の有無を問わない。そして、未来のよりどころは人により異なり、瞬時に変化していく。

総会予告

令和三年度 宝相華会総会

日 時 令和三年四月十八日(日) 十時開会
場 所 ホテル日航奈良(JR奈良駅西側)
会 費 五、〇〇〇円(当日受付いただきます)
(但し、新入会員無料、平成二十八年以降の卒業生三、〇〇〇円)

世話係

昭和54年卒 恩師の先生方も来ていただく予定です。お誘い合せの上多数御参加下さい。

※新型コロナウイルスの影響により延期になる場合がございます。

宝相華会事務局

従って未来のよりどころや目的を一般論で述べることはできないと述べている。私たちに課せられる苦境を取り除くことは最も理想的な方法であるが、それができないのが現実であるなら、各人が独自のよりどころや目的を持つ事が苦境を乗り越える方法である。今年、奈良高校を卒業される皆さんは校舎の耐震問題で劣悪な環境を耐えられました。耐えられた要因にはきっと卒業後の前途洋々たる未来というよりどころがあったと思います。長い人生においては更なる苦境に立たされる状況に陥ることもあるでしょう。その時には高校時代を思い出して、未来のよりどころや目的を持ち苦境を乗り越えて下さい。人間の伸びる時期は人それぞれです。若い時期に伸びる人もおれば、晩年になり功をなす人もおります。いつも自分の力を精一杯出し切るようにして下さい。私たち同窓は君たち卒業生を応援しております。

さて、最後になりましたが、奈良高校は令和四年に校

舎を移転します。さらに、令和五年に奈良高校創立百年を迎えます。校舎の移転や創立百年に関する情報を宝相華会のホームページで出来る限り早く掲載するようにしています。また、創立百年の記念行事に役立てるように学び舎写真集を掲載しています。今後、同窓の集いの場を提供できるような企画も考えていく予定です。企画の提案や校舎移転や宝相華会に関するご意見等を宝相華会ホームページの問い合わせを利用して投稿して頂ければ幸いです。校舎の移転に合わせて、現在ある銅像や記念物を移設して欲しいという要望があります。しかし、移設には多大の費用が必要となることから、宝相華会会員各位のご支援が必要となります。校舎の移転や創立百年に向けての宝相華会の活動をご理解の上、今まで以上のご協力をお願いします。

心を鏡のごとく磨く



学校長 中野善久

(昭55年卒)

二十四節気では「立春」、
「雨水」から「啓蟄」へと移
り、ここ法蓮にも穏やかな光
が届けられ、早春の息吹を感
じる頃となりました。宝相華

見等を宝相華会ホームページの問い合わせを利用して投稿して頂ければ幸いです。校舎の移転に合わせて、現在ある銅像や記念物を移設して欲しいという要望があります。しかし、移設には多大の費用が必要となることから、宝相華会会員各位のご支援が必要となります。校舎の移転や創立百年に向けての宝相華会の活動をご理解の上、今まで以上のご協力をお願いします。

会の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。本年度も母校奈良高校に変わらぬ温かいご協力・ご支援を賜りましたことを心より厚くお礼申し上げます。本年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため四月の総会をはじめ、ともしび会総会、大阪支部総

会、つどい会総会、そして東京支部総会において会員の皆様にお会いすることが叶わず、大変残念な一年となってしまいました。次年度、感染症が収束し、本校生徒の様子を報告させていただけることを心から祈っております。

さて、令和四年度四月より新しい学習指導要領が第一学年より学年進行で順次実施されますが、先般、本校においてもこの新しい学習指導要領に則った学校の総合的な教育計画である教育課程を編成したところとす。今回の改訂では、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要な理念となっております。教育を学校で完結させることなく、学校が目指す教育目標と社会が求めるものとの共有化を図り、生徒が実社会で生きていくための実践的な力を育成する教育活動の創造が求められています。

今、AIやIoTの進化に伴う社会の産業構造の急速な変化の波が押し寄せています。これまでのモノの大量生産が経済成長を牽引してきた

時代からデジタル感覚を磨き、知識の習得や情報収集を行い、それらを活用して新しいものを創造する力が重要とされる時代を迎えています。こうした新しい時代を切り拓いていく上で、世界の多様な人々と協働・連携していくことは不可欠であり、地球規模で広く物事を考えるようなグローバルな視点をもって、力強く社会や世界の諸課題に對峙していく人材の育成が大切と考えます。

本校が目標とする生徒の力を育成していくために、編成した教育課程を効果的に機能させていく方策として「カリキュラム・マネジメント」に取り組んでいく必要があります。これからの時代の諸課題に對応するには、各教科の独立した教育内容の組織化を図り、色々な教科の力を総合的に駆使して問題解決を図る教科横断的・統合型の力が必要になってきます。つまり、習得した知識・技能を活用して課題解決に向けて思考する力を育成していくことが重要なのです。運動の場面でもト

レーニングを行い、個々の身体能力が向上したとしても、それがすぐに競技力に直結するとは限らないのと同様です。獲得した身体能力を操作する技術を習得しなければ最終的な競技力の向上につながらないのとよく似ています。教育課程を基盤にして実社会で必要とされる教科横断的・統合型の力を育成するために各教科間の連携を組織するのが「カリキュラム・マネジメント」なのです。

「カリキュラム・マネジメント」を推進していく上で、二つの側面に留意する必要があります。一つ目は授業を始めとする個々の教育活動の「改善」です。教育活動を計画し、それを実際に実施して、その効果を検証するPDCAサイクルを稼働させることで教育活動の「改善」を行う側面です。いわゆる「例年通り」は教育の充実にはつながらないのです。そして、もう一つの側面として学校の「改革」があります。日常の「改善」のサイクルから本校のグローバル人材の育成とい

う教育目標達成に向けた「改革」への推進力が生まれてくると考えます。こうした意味で「カリキュラム・マネジメント」はまさに生徒を中心に据えた学校経営そのものであり、「改善」と「改革」の二つのサイクルを効果的に稼働させることが私の役割です。

これまで本校のSSH関連授業では、探究活動を重視してきました。探究活動では、正解のない課題に対して自分なりの解決策を見つけていくために色々な視点から分析・思考する教科横断的・統合型の力の育成を目指してきました。「カリキュラム・マネジメント」を通じて、今後も探究活動を一層推進してまいります。そして生徒が自分の「考える力」をさらに高めることにより将来の様々な困難を乗り越え、国際社会で逞しく生きていくことを期待しています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため前例のない対応が迫られることの連続でした。全校生徒の密集に配慮するために登校する曜日を

指定する分散登校、朝の通勤時の混雑を避けるための時差登校、さらには青丹祭や体育大会に関しては、すべて非公開放という判断をさせていただきました。二年生の修学旅行についても、本稿を執筆している時点で、その実施は不透明な状況です。こうした対応を考える上で、私自身、常に「生徒にとって最善のことは何か」、「どうすれば生徒の教育を保障できるか」ということを自分の判断の中心に据えてきました。

私が初めてクラス担任をした時に当時の学年主任の先生から「常に生徒に目を向けなさい。必ず生徒は先生について来ます。」と教えていただきました。本年度ほど自分の心の中でこの言葉を反芻したことはありませんでした。問題が複雑になった時、生徒を中心に据えて判断すれば大丈夫と信じ、一層生徒に心を向け、生徒の姿をイメージするように心がけてきました。

幕末の備中松山藩の藩政改革をした山田方谷が「心を鏡のごとく磨け。人は磨き切つ

た己の鏡の心をよりどころとして行動せよ。」という言葉を残しています。「自分の心に生徒の姿がどれほど鮮明に映っているのだろうか。」を常に自問しながらこれからも教育を進めていきたいと思えます。

恩師の便り

奈高への思い

最後になりますが、宝相華会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げますとともに、次年度もこれまで同様にご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。とさせていただきます。

前川 嘉徳 (昭55年卒)

元教諭 (平4〜14年在職)

還暦を迎えるにあたり、四十四年に及ぶ私の奈高への思いについて話したいと思えます。奈高には、四度お世話になりました。高校生、教育実習生、非常勤講師、そして、最も長かったのが教員としての十年間です。

奈高生として過ごした三年間は、私にとって単に、3/59ではありませんでした。自主性を育て、本当の学び方を論

してくださった恩師の方々。個性豊かで、勉強だけでなく、才能あふれる特技を持った友人ならびに先輩の方々。そんな多くの人との出会いの中で過ごした高校生活は、私にとってかけがえのない財産です。その中でも合格発表からしばらくして、中学時代のテニス(現ソフトテニス)部の先輩から電話をもらい、早速天理高校へ先輩方とともに



練習試合に行きました。そこには、私と同じく新入生となる栗野君がいました。その時には、二年後、ペアとして滋賀インターハイへ出場することになるとは、思いもよりませんでした。クラブでは、「一目二走三方四胆」の下、毎日、練習し続けました。練習の場には、半年前の新人戦で高商を破り、団体で優勝を勝ち取った頼れる先輩方と、その方々をOBとして指導していた大久保さんがいらっしやり、心強い存在でした。先輩方の戦績に追いつくべく、土日には高商、さらに市尼、平安など県外への練習試

合。冬休みには、京都宝ヶ池そばの同志社の体育館へ。夏休みには、新幹線で同志社の大学生に交じって岡山合宿。今から思えば、他校にはない環境でテニスをするのができました。ありがとうございます。先輩たちの戦績には遙かに及びませんでした。同期六名で打ち込んだ日々には悔いはありません。そんな同期と一緒に一昨年、学生時代以来となる全員揃っての洞川温泉旅行。出発前に、懐かしの母校テニスコートで一時を過ごしました。旅行では、辛かった練習、今では考えられないようなOBからの、胆を鍛えるような特訓の数々。チームとして過ごしたのはたった三年間でしたが、私にとっては大切な宝です。話は飛びますが、先月の夕刻、法蓮町に住むテニス部同期の植野君と散歩がてら、母校のテニスコートを訪れました。コートには、蒲鉾形の仮設体育館と部室らしき建物。予想はしていたものの、二年後の母校移転が近づきつつあるのを実感しました。自宅のある

佐保川沿いから見慣れた奈高の制服が消えるのもとても寂しいことですが、これからも奈高を応援していくことには変わりありません。前回の寄稿で、恩師の方々については紹介させて頂きましたが、やはり一言。私が化学の教員を続けてこられたのは、やはり、先生方の存在が大きいです。二年間担任をして頂いた矢和多先生を始め、奈高在職中ご指導くださった先輩の先生方。教育実習中、指導教官ではないT先生に授業中突然質問され、しどろもどろになっていた私に、授業最後の感想メモで、「めげずに頑張ってください。先生の授業分かり易かったです。」と勇気をくれた生徒たち。また、担任した生徒たちが、卒業式にくれた最後の言葉。それらが支えとなって、今の私があります。今でも、ソフトテニスの大会で、のびのびプレーしている奈高の後輩たちを見かけると、心の中でいつもメールを送っています。奈高よ、ありがとうございます。これからも応援しています。



東大寺長老 上野 道善 (昭33年卒)

恩 師

花山院 弘 匡 先生

元教諭（平16～20年在職）

現・奈良県教育委員、春日大社宮司

早期終息へ祈り一心に

奈良市の東にそびえる御蓋山（みかさやま）、春日山は「万葉集」にも詠まれた神山。平城京の人々を守り、中世には奈良・京都南部の龍神信仰の中心地であった神山の麓に鎮座する春日大社は、創建以来1300年にわたり、国家国民の平和と安寧を祈り続けている。

春日大社宮司

花山院 弘匡さん（58）



「コロナ終息後こそ、新たなより良い社会をつくる時」と語る花山院弘匡宮司。奈良市春日野町の春日大社

れまでの22年間は県立高校の教壇に立っていた。前宮司が体調不良のため退任したことを受け、急ぎよ奉職の依頼を受けた当時の心境を「大変悩みましたが神様からのおほし

めしと思い、お受けいたしました」と振り返る。同大社本殿第三殿の祭神、天児屋根命（あめのこやねのみこと）は藤原氏の祖先神。代々の宮司を藤原氏が務めることには「神様と関わりの深い者が国家国民のために奏上する祈りは、より神様にお聞き届けられやすい」と大きな意味がある。先々代の宮司だった父・親忠さん（故人）も民俗学の研究をしながら高校の教師を校長まで務めた教育者。国家国民のため、一心に祈る時、「ふと、父や先祖の後ろ姿を感じることがあります」という。

今年1月31日からは新型コロナウイルスのまん延を阻止し、人々が平和な生活を送れるよう願う特別祈願を開始した。毎朝の朝拝の中で「疫神齋符」を奉り、悪疫退散の祝詞を奏上する。さらには年間2200回以上の全ての祭事において新型コロナウイルスの退散を祈っている。その祈



毎日欠かさず行われる朝拝。新型コロナウイルスの早期終息に加え、各地で発生した災害の被災地復興などを願い、今日も祈りをささげる。奈良市春日野町の春日大社

りはすでに1600回を超えた。新型コロナウイルスは尊い命を奪い、人々にさまざまな苦痛と自制を強いている。また、人類はウイルスや災害、自ら引き起こす戦争などの苦難に何度も何度も遭遇し、悲しみ、苦しみを乗り越えざるを得なかった。「新型コロナウイルスは国民の努力と英知により、必ず終息への道が見えてくる。そして、コロナ終息後こそ、新たなより良い社会をつくる時なのです」と話した。（奈良市）

定時制課程で学んだこと

今 西 弘 和

元教諭（昭62～平9年在職）

教員生活を退き早五年が過ぎ、現場での記憶が日ごとに薄れ、遠き過去の記憶となりつつある今、ともしび会より今回の依頼を頂き、あの当時のことを思い返す機会を与えて頂いたことに感謝しているところです。

教員生活の三分の一が定時制課程に当たり、教員としての生き方や取り組むべき心構えを改めて教えられた事は、私の教員生活にとって大きな道しるべとなりました。

新米教員として七年間の全日制勤務から全く経験のない定時制勤務を命じられ、すべてが新鮮で感動と刺激のある日々を過ごしたことを思い出しています。

教職員の数が十数名で夕礼（せきれい）が五時から始まるのです。全日制から行つた私は、戸惑うばかりでした。

全日制であれば、一教科で同じ程の人数で対応し取り組んでいましたが、ここでは教科の決め事や評価基準等すべてが自分にあるという責任を痛感しました。

私の担当する教科が保健体育で、実技では人数・男女比・年齢構成等で種目選定に苦慮したこと、座学においては看護師を目指している准看護師の生徒たちが真剣な眼差しで授業を受けていたことを思い出しています。

また、生徒たちの置かれている環境も千差万別で生徒個々に対応することの重大さを教えられました。年齢が私より年上の生徒、自力で教室の移動がままならない生徒、対人関係を苦手としている生徒、自己主張の強すぎる生徒、何らかの理由があり自宅からの登校が無理な生徒等々

と向き合う事が出来たことは、これ以降の教員生活に大変役立ちました。

例えば、年上の生徒は子育てから手が離れ、仕事と学校生活の両立を図り、自分の子と同じ年代の生徒たちと共に学ぶ姿は、他の生徒のみならず私も教えられるものがありました。

昼間働きのながらも学校生活を充実させるべく、華道や運動クラブ等の部活動に取り組み生徒も多くいました。

九時に授業を終え、一時間程度の限られた時間を有効に活用し、全日制定時制合同の文化祭に出展したり、近畿大会や全国大会の出場を成し遂げた生徒もいました。

部活動で指導した生徒たちの中には卒業後も交流があり、結婚仲人を頼みに来る生徒、盃を交わしながら旧交を深めている生徒もいます。

生徒たちにとって四年間は長く感じるものがあると思います。それを感じるのは学年が進むにつれ生徒数の減少です。私が勤めていた当時の一年生は、定数ほどの生徒が入

学していました。

しかし、四年生になると半数以下となっていました。

このような状態から少しでも学校に興味関心を持たせる事が出来ないかと試行錯誤し、その一つとして学校行事の充実を図りました。定時制独自の入学式・卒業式を実施する計画や学年ごとの校外学習や全学年での校外研修の計画、校内運動会や球技大会の計画等に取り組みましたが、すべてを実現するには時間を要しました。

中でも苦慮したのは、着任した頃は修学旅行がありませんでした。定時制の生徒にこそ体験させるべきだと思い、学校や県教育委員会と折衝を重ねながら生徒の職場の理解も得て実施することが出来ました。

ちょうどこの頃から飛行機の利用が可能となり、沖繩に行つた事は、忘れることのない思い出となつています。

私にとって定時制の十年間は、それ以降の教員としての自覚・責任・自信に繋がり、

無事教員生活を全うすることが出来たと思います。

思春期の生徒たちは色々なことに興味関心を持ち、失敗を繰り返しながら成長していくものだと思います。その場に出会える教師は幸せ者である反面、心に残るものを与えなければならぬ責任があると思います。常に愛情を持つて向き合えば決して難しい事ではないと思えました。

今現在の私は、退職と同時期に黄色靭帯骨化症という特定疾患を患い、週二回のリハビリと長年関わってきた柔道関係のお手伝いをし、日々過ごしています。

後になりましたが、この機会を与えていただいた奈良高等学校、宝相華会・ともしび会に感謝すると共に会の益々のご発展を祈念しています。



若き日の思い出

春日若宮おん祭り

古くから伝わる春日大社若宮のお祭り。催される奈良最大のお祭りであるが、お祭りを特におん祭りというのは何故だろう。最近、書店で岩城範枝さんの「おんまつり」（絵は小西英子さん）という本を見つけた。薄い絵本であるが要領よく祭りの内容が描かれている。若い昔の思い出が一気に戻ってきた。今から七十年ばかり前、奈中最後の卒業生となり、そのまま翌年に新制奈高三年生として卒業した昭和二十四年から数年の間、おん祭りの夜、御旅所で行われる舞楽を旧友たちと拝観することが続いた。毎年お見えになっていた恩師片岸先生や、溝上先生にお会いできるのも楽しみだった。

光田 秀雄

(昭23年卒)

大雪の夜もあった。十五cmも積もったか、御旅所から少し離れた飛火野で雪の上に寝て遠くに響く鼈太鼓の音を聞いたことがある。全く夢の世界にいたようだった。ここで用いられる一対の鼈太鼓は現在では複製だそうだが当時は国宝の鼈太鼓そのものであった。納曾利、蘭陵王など千数百年を超えて受け継がれてきた舞をすぐ目の前で自由に見られたのは貴重な経験である。奈高の先生も務められた笠置侃一先生も舞楽の一員として演じておられた。先述の本には、神様を御祭の当日零時にお社から御旅所までお連れする様子が描かれている。私はこの遷御は知らないのだが、これと同じ方式で行われる遷御の様子は一度だけ拝んだことがある。これがこの本に記されているものと私の記憶と少し異なるところがある。深夜全ての行事が終ると「燈火を滅す」の声とともに全ての明かりが消され、間もなく真つ暗闇の中、二つの松明を引きずって清められた道を「おお」という警蹕の声とともにお香を持った神官、幣帛を捧げた神官の先導に続き、神官が捧げる柵（なぎ）に宿る御霊が四方を白布で囲われ、これに続く多くの神官とともにお社に戻って行かれる。全く明かりのない深夜の参道であるが当日は満月で白布の中の御霊の様子を明瞭に拝むことができた。この本では、「柵を持った大勢の神官に守られた御霊」が遷御になると記されているのだが、春日若宮では他の神様で柵が用いられるところを柵がもちいられるのだと私は憶えている。もつとも、遙か昔のことで私が誤って勝手にそう憶えているのかも知れない。

若い頃の思い出の一つである。若い頃の思い出の一つである。

静かなる第二の人生で尚惑う心

山中 健弘

(昭38年卒)

私は思うところがあって、五十八歳の時に早期退任をした。それ迄手掛けて来た担当本部の大改革に一定の目処を付けることが出来た時だった。

退職後は誰から指示をされることもなく、自分の歩む道を自分自身で自由に決められると、その解放感を満喫した

いと念じていた。まずは繁忙の都会生活に別れを告げ、三浦半島西海岸の小さな漁師町に引っ越した。東京を離れたがらない妻を強引に説得してのことだった。漁師町と言っても東京への日帰り往復が可能であり、何とかぎりぎり妻との妥協の結果でもあった。ホームセンターに通って材料を仕入れ、ダイビング機器類や釣り道具を収納する棚やラックを作製した。小型船舶操縦免許を取得し、中古の

ボートも手に入れた。駐車の手配をせず近隣をあちこち回る為、これも中古の原付バイクも購入した。こうして新生活のインフラを整え、私は満ち足りた気持ちで第二の人生に踏み出した。

旬の魚を追っての相模湾でのボート釣り、夏季にはダイビング、愛犬を連れての近隣の海辺や低山へのハイキング、里山では畑で作業中の人達から直接三浦野菜を分けてもらうことも覚えた。妻との一寸した諍いを解消すべく掃除洗濯等の家事を分担することも進んで覚えた。通勤を気にする必要も無く、毎朝ゆっくり目覚めて居間のペランダで眼下に広がる相模湾を目にし、富士山や伊豆大島を遠望しながら飲むモーニングコーヒの味は格別だった。数年後、満ち足りていた筈

の第二の人生に幽かな疑問が芽生えた。自らの年金を主たる原資とし、退職金の範囲内で生活のインフラを整え、それ以上の贅沢は無縁と考えていたので、分相応の生活に不満は無かった。その自在の生活に対し果たしてこれで良いのか、自分は自らの人生をしっかりと生きているのかとの自問であった。

偶々輪番制の下、住んでいたマンションの管理組合の理事会社役員就任の順番が回って来て、私は理事会活動に参加することとなった。その時の理事長は独断専行が顕著で、管理会社のフロント担当や管理人を立場の低い業者扱いで傍若無人の振舞い、権力意識が強く管理費や諸雑費の使用も独断で決定する、その言動に問題があり、当時監事役だった私は、思い切って次々に理事長を諫める発言をした。このことが、それ迄私の胸深く封印されていた社会正義感に火を付けてしまった。新聞を隅から隅までじっくり読む時間があり、テレビも各局の報道番組を比較しながら

ら考察する時間もたつぷりあった私の中に政治経済社会問題に対し自ら思うところが多々あり、そのマグマが胸の奥底でふつふつとたぎっていることに気付かされたのだった。心のざわめきは波紋の様に広がって行き、それ迄の勝手気儘な私の生き方に大きな疑問が立ちはだかった。

マスメディアは、本当にジャーナリストとしての仕事を果たしているのか？ 学校や職場でのいじめやハラスメントが増えているのではないか？ 同調圧力が強まり、少数意見や多様な生き方が無視され息の詰まる社会になっていないか？

貿易立国の日本の若者は海外駐在を望まず、三十、四十歳になっても結婚せずに実家での親との同居生活に安心しているとか。モンスターペアレントやブラック企業の話、いつまでも無くならないオレオレ詐欺等々。バブルが弾けて立ち直れぬ内に、今度はリーマンショックに襲われ、この失われた二十年と言われる間に、日本

は多くの分野で劣化を続け、様々な文化社会経済指標は先進諸国の中でも最下位レベルにある。

その後も世の中は相変わらずで、戦後最長政権と言われる内閣は、日本の防衛政策や日米同盟のあり方を憲法に抵触し兼ねない形で独自の解釈を重ね、数の力を頼み法律を施行した。首相やその夫人が関わるスキャンダルや公職選挙法違反が疑われる事件が発覚しても、説明責任を果たさず国会の場でも逃げ続ける。新型コロナウイルス蔓延が一年近く続く今も、政府の対策

は緊張感や危機意識に欠け、too little too lateと思わざるを得ない。地球温暖化や核・原発問題、隣国との政治問題や領土問題それに拉致問題と心配の種は枚挙に暇が無い。

浮世の垢を落とし、清浄な空気と水、美しい自然の中で悠々自適に過ごす筈だった私の老後の生活は、今になってざわつき始め、落ち着かない日々を送っている。齢七十五を迎えた私は、新たな社会活動に取り組むのも難しく、自分に何か出来ることがあるのかと悩みつつ、今日も私の心は惑いの海を彷徨っている。

2020 - 1977 = ?

鈴木康史

(昭52年卒)

私が奈良高を卒業する一九七七年までのある日。グラウンドの東側。細い直線の登り坂。登って左に曲がると、法蓮稲荷大明神がある道。陸上部だった私は仲間

と、その登り坂を何度もダッシュ。ある時はその道を通り、鴻ノ池競技場へ。当時は一週三〇〇mという中途半端で、周りは何もない土のトラック。五〇mダッシュや

一〇〇mダッシュやインターバルトレーニング。夏は水道の水を頭から被っていた。

二〇一九年二月十七日、中学の同窓会に帰郷。生駒郡三郷町の実家は売り払ったため、同窓会後は、ベロベロに酩酊しながら、三条通のホテルフジタ奈良に宿泊。翌日、二日酔いながら、何度もダッシュをした登り坂に立っていた。そして、ポケットから取り出したのはiPhone。記憶に残るグラウンドや校舎を撮影。

毎日、電化間もない関西線で王寺駅から奈良駅まで通っていた頃、車窓から見えるのは、遠くの法隆寺の五重塔、松尾山の山並み、郡山の金魚の養殖場。電車の中では形だけ「大学への数学」。自宅の電話は黒電話、公衆電話もダイヤル式。知らないことを調べるのは、国語辞典、百科事典、図書館。

一九八一年に大学法学部を卒業し、国産コンピューターメーカー「富士通」に就職した私は、そこで初めてコンピューターというものを知っ

た。海外法務に配属され、右も左も分からない私が、モトローラやテキサスインスツルメンツ、そしてインテルという世界有数の半導体メーカーとのライセンス交渉。入社したての人間に「そんな交渉、できる訳ないやろ」と心で思いつつ、悪戦苦闘。でも、忘れられないのは、入社したての頃の一つの契約書。ゼロックス社から、たった一五〇〇ドルで、ある技術をライセンスしますよという、わずか数頁の契約書での申し入れ。まさかその技術が、このネットワーク社会の始まりになるとは全く想像していなかった。

一九八〇年代は、パソコンが一般家庭に始め、電話回線にモジュラージャックで繋ぐパソコン通信や日本語ワープロが普及。

一九九〇年代に入ると「ネオダマ」と言われる、ネットワーク、オープン、ダウンサイジング、マルチベンダーの時代に。米国IBM社の互換OSの大型コンピュータを得意とする富士通はこの頃から徐々に厳しい環境になり始

めた。Windowsの販売によりパソコンが一般家庭に爆発的に普及。社内では、パソコンをLANケーブルで社内ネットワークにつなげることが一気に進んだ。この有線LANに使われる技術がイーサネット。私が入社したての時にたった一五〇〇ドルでライセンスされた技術。

一九九〇年代後半には、インターネットの商用化時代の幕開け。私は、インターネット時代になった時にどのような法律問題が生じるのか研究する必要があると感じ、社内での研究会を立ち上げた。その成果は、個人情報保護法、電子署名法、不正アクセス禁止法などの成立にほんのごくわずか繋がった。

一九九七～八年頃から、IT業界は、一九九九年を意味する「九九」の次が二〇〇〇年を意味する「〇〇」になると世界中のコンピュータが誤動作するという二〇〇〇年問題に直面。私は法務として会社の対応方針決定に参画。でも結果は社会の混乱は全くなし。「あの騒ぎは何だったん

や？」

二〇〇〇年代以降は、世界のプラットフォームとなるGoogleが生まれ、Amazonが躍進し、Facebookが登場。携帯電話はガラケイからスマホに。

今、iPhoneに代表されるスマホ（i）、SNS、Zoomなど人と人を繋げる空間と世界のあらゆる情報が言語や映像で得られる空間が生まれ、音楽や映画が楽しめ、カメラやビデオで思い出を残し、ゲームを楽しみ、道案内をしてもらい、お薬手帳になる、その他諸々。

関西線の中で「大学への数学」を開き、うたた寝していた私には到底想像ができない世界。「2020-1977」は「スマホ」。

スマホは、私達の生活を劇的に変えたデジタル&IT技術の想像を絶する進化の象徴。

私は幸運にも今もIT系企業で法務担当役員をさせていただいています。普段の生活の場は、会社、自宅、フィットネスジムのわずか三方所と

言っても過言ではありませぬ。エアロビクス、ズンバ、リトモスというダンス系プログラムが大好きで、二〇〇〇年に入会以来通い続けています。そんな私にも、二〇二一年の春には二人目の孫ができて予定です。

「2043-2020 = ?」

二〇四三年は私が希望する天寿を全うする年です（笑）。その頃には二人目の孫も成人となり、私は最低でもその二年前までは現役で孫と一緒にエアロビクスを楽しんでいる予定です（笑）。

この孫たちが健康で明るい人生を送れるように、異常気

今も続く関係に感謝

森川理恵
(平4年卒)



箱根仙石原すすき草原

象の原因となっている環境問題が、良い方向で解決されることを何よりも願っています。そして、「2043-2020」は、「環境問題を解決する人類の叡智の結集」であって欲しいと祈っています。

た。歴史で学び、自分自身もその中に産まれた昭和が終わったのは、それなりに衝撃的で、新しい時代は未知で少し不透明な感じがした。

近鉄新大宮駅から国道に沿って、住宅街の中を少し上って学校へ通う。裏門から入ると、弓道の練習が垣間見え、今プレハブ校舎が建っている小さな運動場の横にある坂道を登りきる。一年生の時は、当時の一番新しい校舎に入った。現在も使用されているプレハブの北の校舎。当時は真っ白で新生活の香りがした。

高校時代は、部活も幽霊部員で、何かに打ち込んだ記憶はない。それでも、自分たちで行き先を決めた遠足のタケノコ掘りや、文化祭でゲーム大会や屋台を出したこと、秋の信州を散策するという華やかさに欠けた修学旅行など、なぜかどれも楽しかったなあとその光景を思い出す。

海に行けるといふ理由だけで、友達と二人、入ってもいない生物部の合宿に参加したのは、格別楽しかった。初めての学校行事以外で行く友達のお泊り、初めての釣り、初めて見た磯の生き物たち。カラフルなアメフラシや、ナマコが出した白い糸な

ど、衝撃的だった。

友達とは暇さえあれば集まって、どれだけ話しても飽き足らず、笑い過ぎて、よく頬が筋肉痛になっていた。

教師になりたての先生が多く、恩師というより、相談できるお兄さんお姉さんのような感じがした。でもそこは奈高生。教師と生徒という立場をわきまえ、節度ある親しさを維持していたと思っ

栗本先生の日本史の授業で忘れられないのは、「奈良県は一つのお寺に、出身地の三重県にある数以上の国宝や国の重要文化財がある。それを見て、スゲーと思った。」と満面の笑みと大きなジェスチャーで話された姿だった。

奈良県に特に強い愛着があったわけでもなかったが、そんな風に奈良県がほめられるのを聞いて、とても新鮮な感じがした。奈良県でいいところなんだ、と思うきつかけ

スの同窓会が続いている。お世話をしてくれる同級生には感謝の気持ちでいっぱい。前回は約三十人が集まった。仕事も家庭も多忙な四十歳代として、結構よい出席率だと思

る。でも、奈良高校は自由である魅力とともに、自ら決めていく必要がある。だからこそ、高校選びも娘の自主性に委ねたい。見守り、応援していく。それが何より難しい。

寂しいのは、思い出の校舎が耐震上の問題から、移転すること。どのような校舎なのかと想像するしかない。娘と

奈良高校同窓会誌によせて

鈴木 泰葉

(平28年卒)

同級生には、自分には想像もしなかったような仕事や活動をしている人たちもいて、刺激的だった。それぞれの道で力を尽くしている同級生たちと話していると、こんな素敵な人たちと一緒に過ごしていたことをとても誇りに感じた。ふだん意識することのな

九〇十月にかけて、奈良高校で教育実習をさせていただきました。先生方には通常のお仕事に加え、このご時世でのさらなるご多忙の中、実習生を受け入れていただいたことに深く感謝申し上げます。

何かと考えたとき、「廻り道だって、いい！」ということでした。奈高生にとって文転や浪人はあまり良い印象ではありません。私が現役奈高生だったときも、文系より理系のほうが注目を浴び、浪人は「大変そう」と思われていました。私は文転も浪人も経験しましたが、私自身も「仕方がないな」とネガティブな気持ちも持っていました。しかし、文転・浪人をした

次の同窓会を、もう楽しみに待っている。

個人的な話になるが、三人の子どもに囲まれ、あわただしくも楽しい毎日過ごしている。仕事と家庭を両立できる仕事にも恵まれた。

これを書いている今、娘が高校受験を迎えている。ぜひ奈良高校へ、という思いはあ

実習中、現役奈高生に進路選択のアドバイスや大学での学び、卒業後の予定進路を内容とした「卒業生に学ぶ」という講演会がありました。自分が奈高生に伝えたいことは

ことで私は人間として大きく成長しました。新しい世界を人より多く見ることができたからです。文系のクラスメートが見せてくれる、数字では表せない、日本語の美しい答えに圧倒され、言葉や感情の世界って面白い！と気付きました。また、奈高生として「奈良で一番！」というプライドがありました。浪人時代には大阪の予備校で自分の見方は井の中の蛙的な発想だったのだと衝撃を受けました。今、他人の良いところを素直に尊敬し、広い視点で考えることができるのはこの経験があったからです。廻り道のない人生であれば決して経験することのなかった世界。それは私の視野を大きく広げてくれました。

また、二〇二一年に向けた就職活動は想像の何倍も過酷なものでした。完全に自分を見失い、「どこでもいいから企業に入れればいい」とひたすら選考を繰り返す日々でした。そんな中、ふと立ち止まり、自分が本当にやりたいこと、心の底から頑張りたいと

考えることはなんだろうと熟考の末、高校時代から憧れていた本来の夢の実現に向けて取り進む覚悟を決めました。自分のペースで確実に夢へ向かっていく今、自分を鼓舞しながら充実した毎日を走っています。

勉強が得意で負けず嫌いな奈高生。そして同時に繊細で周りの目を気にしてしまうことも多いと思います。そんな奈高生に私は「遠回りは怖くない。途中で発見がたくさんある」と伝えました。私が実習中に出会った生徒の中にも、文転を迷っている生徒が何人かいました。たくさん話を聞いて、実習を終える頃には「文系で頑張る！」と報告してくれました。最終日にプレゼントしてくれた寄せ書きには「鈴木先生のようにしっかりと考えてやりたいことを見つけてます！」「講演、ためになりました！」とたくさんメッセージがあり、さらに「先生も夢を叶えてください！自分も頑張ります！」「応援しています！」と書いてくれました。私の話が少しでも勇

気を与えられていたことが分かり、嬉しかったです。

実習中、「周りとは比べなくていい。自分が生徒に何を伝えたいか。あなたにしか伝えられないことを伝えてね。」と指導教官の先生からアドバイスをいただきました。さらに、卒業してからもずっと見守り続けてくださっているコーラス部の顧問の先生はもちろん、三年のときの担任の先生、読書感想文の受賞でお世話になった先生、大好きだった体育の先生、いつも笑顔で話を聞いてくださっていた家庭科の先生、そして他校に転動された今も私を応援してくださっている先生方から「あなたはあなたらしく進めばいいんだよ」と言っていただき、心が救われました。知らない間に自分を見失いかけていたのだと思います。先生方の言葉で、自分の原点に立ち返ることができました。

奈良高校は高校生の私に夢を、大学生の私に勇気を与えてくれた場所です。私が過ごした北館のF10やJ9の教室には今や足を踏み入れること

はできず、変わってしまったところもあります。しかし、奈良高校の安心感、先生方の信頼感、生徒の自主創造の心はずっと変わりません。奈良

音楽と私

私は音楽が好きです。幼い頃から今に至るまで、エレク トーンやピアノ、サククス、打楽器、そして歌など、様々な楽器に触れ、様々な場で演奏したりしました。なぜここまで続けてこれたのか。やはり演奏して楽しいからというのがあります。しかし、楽しいだけではなく、音楽は私を成長させてくれるものだったから、ここまで続いているのだと思います。例えば、音楽を通しての成長とは、演奏者としての本番の経験が多かったことで、人前に出ることの抵抗があまりなくなること。曲の練習が行き

高校は私にとって大切な場所、そして再出発のスタート地点となりました。道を示してくれた今回の実習に感謝し、精進し続けたいです。

中村 理香子

(平30年卒)

詰まることもあったので、困難なときにどうやってそれを乗り越えるかを考えて行動するようになったこと。複数での演奏経験から、組織やグループの中で自分の役割について考えるようになったことなどがありません。また、音楽はいつまでも魅力的で、新しい発見があるものでもありました。では、最近私が新たに気づいた音楽の魅力について話します。

私は今、フランチ・リストの「愛の夢第3番」を練習しています。演奏で女性を虜にしたと言われるリストの代表曲であり、ピアノのクラシッ

ク曲としても超有名曲です。紙面なので、聞いてもらえないのが残念ですが、誰しも一度は聞いたことのある曲なのではないでしょうか。この曲は、もとは独唱歌曲として書かれたもので詩がありません。詩の冒頭は、「ドイツ語で『O liebso lang du lieben kanst』です。意味は、「おお、愛しうる限り愛せ！」で、一見恋人に対して歌っているようにも思えますが、この曲は恋人だけではなく、もっと壮大な普遍的愛について謳っていると言われています。以上のことを踏まえ、私はこの曲で自分の思う、様々な人に対する「愛」を表現しようと思ひ、練習に励んでいました。

それから、知り合いのピアノの先生に自分の演奏を聴いてもらえる機会がありました。その先生は私の演奏を聴いた後、「愛についての曲なのに、あっさりして聞こえる。もっと誰かの彼氏を奪うような気持ちで、この人普段の恋愛すごいんじゃないか」と聞いていた人に思わせ

るような演奏をしないと！とおっしゃいました。私は思いました。「そんな恋愛したことない！」(笑)。先生は続けて、「ピアノニストは女優でもあるから、その曲のイメージにあつた人を演じて演奏するという方法もあるよ」とおっしゃいました。このことを踏まえ、私は自分が思う愛以上の「濃い愛」をイメージし、そのような人を演じて弾きました。すると、本当に演じるだけで音や表現の仕方に変化が出て、弾いていて不思議な感覚になりました。それは、演じることで得た、自分が抱いたことのない感情でした。

この経験で、音楽には自分が寄り添うことで、経験したことのない感情を体験させてくれる力があると知りました。曲に対するイメージと、曲そのものの音楽的な素晴らしさが相まって、演奏中または鑑賞中に、まるで本当にその感情を経験しているかのような感覚になることができました。私は今まで、音楽でこのような感動体験をしてきたことに加え、自分がした演奏で誰かが喜んでくれたこと、また、音楽の感動体験を複数人で共有することの楽しさ、やりがいを感じたため、これまで音楽を様々な形で続けてこれたのかもしれないと。大卒卒業後、私は音楽の教師に

東京支部だより

東京支部長退任にあたって 「奈良高校との思い出」

支部長 阿部 洋 己
(昭31年卒)



今年度の支部総会で退任し、その席でご挨拶を申し上げます。つもりでございましたがコロナ禍で支部総会が中止になりましたので紙面をお借りして、これまでにお世話になりました。なるうと考えています。不安はありませんが、今まで音楽に助けられてきたこと、音楽によって自分の思いを表現することができた経験、そして、何より音楽が好きであるという思いを忘れず、前に進んでいきたいと思ひます。

接する日比谷公園に立ち寄ることを常としていました。秋たけなわの公園は紅葉に彩られ、秋咲きのバラが華麗に咲きそろう中で恒例の菊花展が開催されています。広大な公園のかんりの場所をとり、まさに百花繚乱、白、黄、紫などの大輪や見た目を圧倒する懸崖造りがところ狭しと覇を競っています。素人目にはどれも金賞、銀賞に見えています。ここまでに育て上げた愛好家諸兄の並々ならぬ汗の結晶の軌跡を思いやり、感激の余韻のまま、隣の法曹会館に向かったことが思い起されます。

毎年、感じていたことですが奈良高校という絆に結ばれ、先輩、後輩の分け隔てなく集える場が年に一度あることの素晴らしさです。奈良に馳せる思いを共有し、最後に「青丹よし奈良の」と歌い始めるのと来し方の思いが交錯して、「奈良高校万歳」と心の中で叫んでいました。

奈良高校の思い出の中で、入学式での校長先生のお話は忘れられません。入学したの

が昭和二十八年ですので校舎は今の「ホテルリガール春日野」の地にありました。冒頭に校長先生が校章の寶相華に触れられて、宝相華の何たるかさえ知らず、伝統の重みと自覚を促される格調高い内容と雰囲気に圧倒されて「ああ、今日から今までは違う世界の一員なのだ」と緊張したことと幼い中学生気分の自分に決別した日になったことを鮮明に覚えています。今にして思えば歴代の校長先生がご挨拶の中で必ず「自主創造」に触れますが六十八年前にこの入学式で聞いた話のままにこのことだったので、とは思いついていません。

奈良高校のかかわりの中で嬉しかったのは丁度、勤めていた社長を退任した年でした。創立記念日に記念講演に招かれたことでした。当日、育んでくれた旧校舎から移転した現在の校舎を初めて訪れました。高台で明るい開放的な感じがしました。会う在校生、どの生徒も元気よく挨拶をしてくれて、その礼儀正しさに先ず、驚きました。全校

生を前に、会社の社長時代の体験談として「ヒット商品はいかに生まれるか、缶コーヒーフIREの開発物語」を話しました。一時間半の間、実に熱心に聞き入ってくれた在校生たちに敬服し、良くぞと後輩たちを誇りに思いました。

それにもまして嬉しかったはこの講演を聞いてくれたいた在校生の一人がその後、大学を卒業してわが社に入社してくれたことです。それが分かったのは彼女が広報担当になり、社史の編纂の取材のために歴代社長の一人としてのコメントを頼みに来た時に、彼女から「実はわたくしは創立記念日の阿部さんの講演を聞いてこの会社に入りたいと思います」と告げられたのです。その思いを持ち続け狭き門を乗り越えて、良くぞわが社への道を選んでくれた志に胸が熱くなった以上に大変な責任を感じました。広い会社の中でしかもその時には自分分は既に会社を離れていたの、普通なら会うことも話すこともない訳で、このような

巡り合わせがあるのかと奈良高校という縁を神様が結び付けてくださったのだと思っています。

会社でも何人かですが先輩、後輩に巡り合い、特別の親しさを感じていました。

地元の奈良、関西を拠点にしている会社と違って、一般的に大学の同窓生は多くいますが高校の同窓生はそう多くはいません。「なに、君も奈良高校か」何か特別の縁で結ばれているような他人でないような愛しい感情が湧くのが不思議でなりません。

昨年、熊野古道を歩いていた時に出会った若い女性二人組が奈良市から来たというので小生も奈良で育ち、三笠中学、奈良高校だったと話した途端、「すごい」と驚嘆の声。思いがけず、現在の奈良高校の存在を知らされました。

わが人生の中で奈良高校に在籍できたこと心から感謝しています。

「ありがとう、奈良高校」



関西本線 佐保川橋梁 1969年

大阪支部だより 鉄路に魅せられて

大阪支部 谷井 浩
(昭46年卒)

奈良市内の船橋で生まれた私は、幼い頃ころ祖母に連れられて毎日のように近くの奈良機関区へ汽車を見に行つた。ポーと汽笛の音が聞こえたと胸が弾んだ。当時機関区にはC51、C11、D51など五十両近い機関車が配置され、列車が到着するたびに機関車が付け替えられ、ボツボツと煤煙を排出しながら

重々しいドラフト音を上げて発車していった。

昭和四十年代の前半になると無煙化がすすめられ、各地の蒸気機関車は次々となくなつていった。高校生のころ最後のSLを求めて近くの関西本線の佐保路へ毎日のようにカメラを提げて写真を撮りに行った思い出がある。

それから五十年余りたち、

日本の美しい風景に溶け込む鉄道をテーマに再び記録に残そうと各地を回っている。今年も北海道から四国まで年間四十回ほど撮影に出かけた。

考えてみれば鉄道は日本の近代化に大きく貢献してきた。かつては隣の町へ出かけるときだけでなく、遠方へ出かけるには鉄道に頼るほかなかった。各地を結ぶ夜行列車も縦横に走っていた。学生時代には周遊券を使って旅に出たものである。その後の急激なモーターライゼーションによってその地位は徐々に低下していった。高速道路が整備され、車で自由にあちこち行けるようになった。航空路線も整い早く移動できるようになった。しかし、私たちにあって鉄道はまだ身近な交通手段である。

一方、過疎化が進む地方においては、乗客の減少により経営が成り立たなくなり、次々と路線が廃止となっていた。JR北海道では一九八〇年以降全体の路線の四割に当たる一五〇〇キロ以上が廃線となり、現状の路線の多くも

その存在意義が問われている。追いつきをかけるように近年のあいつく自然災害で肥薩線や根室本線のように路線が大きな被害を受け、存続が危ぶまれている。経営面から考えれば廃線はやむを得ないかもしれない。しかし、鉄道を守ることは日本の文化を守ることになるのではないかとの思いからこれからも旅をつづけていきたいと思う。(ホームページ「美しき鉄道の旅」をご覧ください)

ともしび会だより

三度目の正直

五十年位前先輩に誘われて初めて石鎚山へ向かう。八月のある日の夜、関西汽船で大阪港(天保山)を出発。翌朝今治港到着、国鉄に乗換え伊予西条へ、更にバスで西之川まで。



昨年の豪雨で氾濫した球磨川流域を走る肥薩線 2019年

野村邦雄

(定昭43年卒)

天候はあまり良くない。山道を登り始め集落跡を通り抜け成就社へ、拝殿でお参りを済ませ神門をくぐる。一キロ程下ると次は登りが続く。試しの鎖を登るとすぐに下りの鎖がある。下りきり休憩

所に着くと巻き道を見つけた。試しの鎖は登り下りしなくても休憩所に着けたのだ。夜明峠を過ぎやがて一ノ鎖に到着。太い鉄の鎖が上に向かつて伸びている。必死になりこれを登って行く。山頂はどこにあるのかガスがかかり見えない。二ノ鎖は登ったのか記憶にないが、三ノ鎖は回避して巻き道を利用する。山頂小屋に到着。すぐ目の前にあるはずの天狗岳はガスで全く見えず。

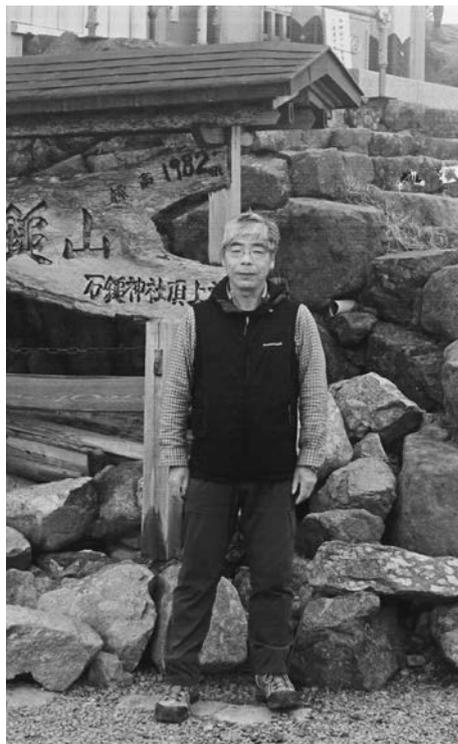
翌朝は雨、南海上に台風が発生したとの情報があり、早々に下山開始。下りは愛大小屋から面河溪へ逃げる様に下山する。松山港から大阪港まで関西汽船で帰路に。二度目は六十六歳の夏、妻とお盆休みを利用し夜に車で出発。途中のサービスエリアで仮眠を取りながら早朝にロープウェイ山麓駅に到着。駅には既に十数人の登山者が始発を待っている。成就社まで一気に登って行く。ロープウェイを利用することで時間短縮ができた。

成就社でお参りを済ませ、

試しの鎖に到着する。鎖を登っているかの様なポーズで「カシヤカシヤ」。今回は巻き道を利用し休憩所に到着。温かい飲み物をいただき少し元気を取り戻す。一ノ鎖は回避し迂回路を利用する。二ノ鎖の手前に鳥居があり登山者が増えてくる。土小屋登山道からの合流点である。ここで昼食にする、おにぎりをほおばりながら上を見上げるとガスがかかっており山頂が見えない。

二ノ鎖も三ノ鎖も回避して迂回路を登りやがて石鎚山頂社がある弥山山頂に到着。山頂小屋で休憩するが、ガスが周りの景色を真っ白に隠したまま。夕方になっても天気は回復せず夕食後すぐに就寝。翌朝、信者の方と一緒に朝のお参りに参加「無事に下山できるように」と祈る。

天気は相変わらず悪い。朝食後山頂で写真を撮るが、周りは真っ白のまま天狗岳はどこにあるのか見えない。小雨交じりのガスの中しばらく回復を待つが、諦めて下山す



ることに。下山後道後温泉で一泊し、疲れを癒す。

三度目は七十歳の十月下旬。定年後十年ほど幼稚園で勤務していたが八月で退職。

一人だと平日でも時間が有るので天気予報と相談しながら計画をと思っていたが、集中豪雨や台風の為予定が立たず、十月も後半になってしまった。最近の予報は外れることが少ない。晴れが続くと予報を信じ山頂小屋を予約。前日の夜に車で出発、早朝にロープウェイ山麓駅に着する。

今回は天気が良く、ロープウェイが高度を上げて行くのと、見事な紅葉が目飛び込んでくる。成就社からの道も

紅葉が楽しませてくれる。

夜明峠に着くと正面に山頂が見える。ガスの流れが速く見え隠れしており、しかもその付近は白くなっている。

年齢を考えて当然の様に鎖はすべて回避し迂回路を選択。更に登って行くと、木や草がキラキラと光っている。「霧氷」だ。思いもしていなかった光景に「カシヤカシャ」。

山頂に着いたがガスで天狗岳が見えない。明日に期待して早めに就寝。

夜中に目が覚め外へ出て空を見上げると星が輝いている。朝早く起きカメラを手に外へ出ると素晴らしい景色に出会うことに。薄暗い中だが



石鏡の天狗岳

天狗岳が目前に現れ、雲海が広がっているのが分かる。少しづつ明るくなつて行く。「カシヤカシャ」シャッター音が止まらない。

やがて真つ赤な太陽が昇ってくる。真つ白な雲海が赤く染まり天狗岳の手前で滝のように流れ・落ち・消えていく。時間を忘れて見とれていくと「早く朝食を摂るように」と呼ばれる。朝食後にも雲海や雄大な景色の虜となる。

下山の途中に山頂を何度も振り返るが、やがてガスがかり見えなくなった。

帰宅後友人に大変満足出来た山登りであったことを話すと「三度目の正直だ」と。

お知らせ

ともしび会「第十回単独総会」開催

令和三年六月二十七日(日)

ホテルリガール春日野

一一時より総会

一二時より懇親会

会費 八、〇〇〇円

後日ご案内差し上げますのでお誘い合わせて多数のご参加お待ちしております。

つどい会だより

新型コロナと健康

つどい会顧問 石田恒夫

(通昭58年卒)



新型コロナウイルスの被害とその影響は私達の身近な健康被害や家庭環境や社会的不安など被り、医療危機、経済的にも大きな損失が日常的な

健康生活に暗い影を落とし入れている今日です。現在はトンネルを通過出来て終息するのはいつの日か見通しも立っていない現状にあつて、私達の健康を守るには三密、マスク着用、手の消毒などの対策は不可欠な事であると思えます。又不要不急の外出、大都市への行動まで慎重にして控

える事が叫ばれています。

高齢化社会で体力的な衰えから、家庭内感染に至り家庭崩壊に至る事も近隣の疎遠に繋がると考えられます。

一方医学や経済などの際限ない発展や向上によって世界の平和の希求が強く求められています。私たちがの年令と健康にも限りがあります。コロナに左右されない健康を保つて自分の体を継続していきたいものです。

年令を重ねても健康な姿である事は、社会的存在にあっても、すばらしい事であり大切な事だと痛感します。

コロナによって巣ごもり状態にならない事も健康への心掛けだと思います。自分の体の健康と調子などとよく相談・判断もして無理のない体を鍛える事も心掛けて、健康維持に努めたいものです。

家庭内においても、椅子やマットなどを利用し又軽い柔軟体操なども自分に適した運動なども、テレビなど紹介の中にあるかと思えます。足や腰、背すじなどの屈伸、適度なハイキングなどなど、細く

永く継続出来る事によって、血の循環を良くし、ストレス解消や、体力の免疫力にも繋がって健康への一助になるのではないかと考えます。

コロナの影響によって、私達の健康の在り方を再確認して行けたらとも思っています。ある専門の先生が高齢者等に筋トレニングの奨励されている記事があり、自分の体力に合った腕立て伏せやフットワーク（かかと上げ）も家中で場所も要せず、体力の現状維持や向上にもなっていくことが期待されるとの事です。

私達の体や体力は年を重ねるに従って少しずつ体の硬さが増す部分が多くなってくると思えます。従って従来保っている若さの体は自然と柔軟性が失われていくと思えます。自分の体力と体の調和をとりながら、健康寿命を長く保ち、自分の体力で家族の世話にならない生活と自分でありたいと思えます。コロナ禍にあっても、安心安全の笑顔の私達でありたいものです。

自主創造をモットーとした、つどい会の母校は奈良高校であり、通信制卒業生一人の誇りの場であり、今や時代の波により新卒業生も入学生の存在もなく、恩師との出合も語り合う場所やチャンスも皆無に等しく、ただ会名が存在しているに過ぎない活気に満たない状況にあります。年々健康への重要性も増して来ます。睡眠、運動、食事等、健康寿命の基を本時には振り返り、奈良高校通信制卒業生であり、又つどい会員でもある事も想い出し元気な源として語り合える機会を期待したいと思えます。



つどい会の皆様へ

事務局 桑原秀教

皆様と共に、楽しみにして参りました、令和三年五月九日開催予定のつどい会総会は、この、コロナ禍の中未だ予測が付きません。沢山の方に来ていただいて、盛大に開催する総会はまだまだ当分は望めない様相です。

今、世間ではオンラインによる会合、ズームを活用した会議等々お聞きます。少人数であれば、ラインを使うとうまく工夫をすれば集い会えるようです。又、無料のアプリをダウンロードして、Zoomを使って皆様の、お顔も見せていただきながら、各自自宅で気楽に参加できる様です。但し問題は、スマホもしくはパソコンが必要になります。高齢者の方が大半の、つどい会メンバーは、スマホをまだお持ちでない方が多いかと思えます。

私の希望ですが、スマホは使ってみますとそれ程難しくはないです。いろいろと便利

な機能が使えます。費用も自分に合わせて契約すると、さほどかかりません。どうか、これからは、必需品になつてくるように思われます。

もしオンラインで、つどい会総会を開催しようと思えば、コロナも会場も気にすることなく、何時でも開催出来る事になります。今迄、家族の介護とか、体調不良とか、家の用事で出席できなかった方も、自宅から、会の皆様と自由にコミュニケーションがとれると思われたい。只、問題は、スマホが必要ということ。運営とか技術的なことは、宝相華会の山下氏にお尋ねする予定です。

今、コロナの時代を生きるにはマラソンを走る覚悟と辛抱が必要です。収束までの道程をウイリスとの戦争ととらえ。と新聞に掲載されています。流行が落ち着き、風邪のように社会に定常化するまでは、辛抱が必要。といわれています。つどい会の皆様、三密を避け、どうかお元気でお過ごし下さい。

第35回奈良高校OB美術展

会期

2021年3月23日【火】

3月28日【日】

時間

10:00 -- 17:30

■初日13:00 --

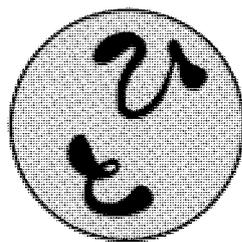
最終日--15:30まで

場所

奈良市美術館
第1展示室

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、
入場制限や開催の中止を行う場合があります。
発熱や咳の症状がある方は入場をご遠慮ください。
ご来場の際は、必ずマスクをご着用ください。
感染拡大予防にご理解とご協力をお願いいたします。
URL <http://naraobart.web.fc2.com/>

叙 勲



(令2年 秋 受章)

瑞宝小綬章

武村 純一 先生 (昭42年卒)
昭42年卒・教諭 校長とし
て 十六年間勤務

計 報

野崎 充亮 氏

(昭33年卒)

宝相華会相談役

(元・副会長)

(令2・11・25 没)

ご逝去に対し衷心より哀悼
の意を表し、心よりご冥福を
お祈りします。



学 校 行 事



体育大会



体育大会 (クラスパフォーマンス)



体育大会 (閉会式)



文化祭 (模擬店)



文化祭 (野外ステージ)



文化祭 (体育館)

編 集 後 記

相変わらず新型コロナウイルスは
いすわっていますね。
皆様はつつがなくお暮らしの
ことと思います。

さて会報誌も83号を迎える
ことになりました。快く原稿
を引き受けたくださる方々が
いて発行を続けることができ
ています。今後とも、寄稿よろし
くお願いいたします。

今回は長らく東京の支部長
を務めていただいていた阿部
様が支部長を退任されそのご
挨拶を頂きました。長い間お
疲れさまでした。

巻頭に総会の案内がありま
すが、状況によっては延期の
事態もあると思います。お含
みおきください。

また、今回は三年に一度の
会費をお願いする時期です。
何かと物入りの時ですが、よ
ろしくご協力お願いします。

令和四年四月より法蓮校舎
とはお別れとなるそうです。
校舎の移転です。

平成元年卒の有志の方々が
映像に残そうと頑張ってくだ
さっています。裏表紙に案内
を載せました。ご覧ください。

(藤原正義)

部 活 動 報 告

部活名など	大会・コンクール名	部 門	賞	クラス	名 前	備 考		
吹奏楽部	It's My Music! 奈良県吹奏楽祭 2020	高等学校コンテスト大瀬成の部	金賞 県教育長賞					
	第48回奈良県アンサンブルコンテスト	サクソフォン四重奏	金賞	J 5 J 6 F 7 F 8	木村 伊織 辻浦 日向 中川 菜沙 川上 祐佳			
囲碁・将棋部	第40回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門奈良県予選	男子個人戦	優勝	J 9	吉岡 大輝	近畿高等学校総合文化祭オンライン参加		
	第9回近畿高等学校囲碁選手権大会奈良県予選	男子個人戦	優勝	F 4	廉 明德			
	第35回奈良県高等学校総合文化祭将棋部門	男子個人戦	準優勝	F 5	奈部谷悠斗			
			3位	J 9	森野 耀介			
第19回奈良県高等学校文化連盟囲碁部門新人大会	男子個人戦	優勝	J 9	吉岡 大輝				
SSH 関連	日経ウーマノミクスプレゼンテーションコンテスト決勝大会	高校生部門	住友電気工業特別賞	S 9	尾崎 麻衣 阿部 美咲 坂井 充 澤田 真緒 須川 絢加 藤本 大翔			
美術部	第44回全国高等学校総合文化祭高知大会			S 3	菅井 彩加	出品		
				J 3	宮本萌々子			
	第40回近畿高等学校総合文化祭奈良大会				S 3	菅井 彩加	出品	
					S 3	中山 爽羽		
	第35回奈良県高等学校総合文化祭	美術・工芸部門	優秀賞		J 2	木村健太郎	令和3年度全総文出品	
					J 9	中島 壮汰		
					J 5	福田 朗子		令和2年度十津川巡回展出品
					S 3	木路 朋華		
		教育長賞	S 3	木路 朋華				
	第28回奈良県高校生アートグランプリ	平面の部			グランプリ	J 2	木村健太郎	
準グランプリ					F 1	平井 苑美		
優良賞					F 3	成戸こはる		
特別賞					J 3	宮本萌々子		
書道部	第35回奈良県高等学校総合文化祭	書道部門	奨励賞	J 8	松村 朱里			
	第47回奈良県ジュニア美術展覧会	書芸部門	佳作	J 8	松村 朱里			
				J 6	山中 宥人			
第21回高校生国際美術展	書の部	佳作		S 6	岡田 美優			
				S 7	日下部 遥			
ESS 部	第6回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会2020			J 3 J 1 J 1	橋本 宗汰 松井 悠夏 岡田 遥香	出場		
写真部	第35回奈良県高等学校総合文化祭	写真部門	優秀賞	F 4	廉 明德	令和3年度全総文出品		
小倉百人一首かるた部	第44回全国高等学校総合文化祭高知大会			J 1	高田 育実	奈良県代表として参加		
コーラス部	第44回全国高等学校総合文化祭2020こうち総文(web総文)	合唱部門				奈良県選抜女声合唱団として参加		
	第40回近畿高等学校総合文化祭奈良大会(WEB KINKI NARA)	合唱・器楽部門				奈良県高等学校合唱Aチームならびに器楽Bチームとして参加		
	第14回奈良ヴォーカルアンサンブルコンテスト高等学校の部		銀賞					
ギターマンドリン部	第40回近畿高等学校総合文化祭奈良大会 WEB KINKI NARA 2020					帝塚山学園ギターマンドリンクラブと合同演奏で参加		
放送局	第37回奈良県高等学校放送コンテスト	アナウンス部門	優秀賞	F 7	片岡 優希			
			優良賞	J 1	早崎佳都乃			
				J 8	堤 晴菜			
		朗読部門	優秀賞	J 2	若林 萌恵			
	ショートムービー部門	優秀賞			番組「換気の喚起」			
卓球部	令和2年度奈良県高校新人卓球大会並びに第48回全国高等学校選抜卓球大会兼第35回近畿高等学校新人卓球大会奈良県予選	女子団体	第3位	J 4 J 4 J 5 J 8 F 2 F 2 F 2 F 5	井手野未來 辰巳 聖奈 松村穂咲奈 大喜 多美 久上烏碧衣 岡本 歩実 山中 優希 守屋 花奈	近畿大会出場		

部活名など	大会・コンクール名	部 門	賞	クラス	名 前	備 考
男子バスケット ボール部	2020奈良県高等学校バスケット ボールチャンピオン大会		第3位			
			優秀選手賞	S 2	水科 亮志	
				S 7	田中 彩斗	
				S 7	横山 昂之	
	第73回全国高等学校バス ケットボール選手権大会 奈良県予選		第3位			
	奈良県高等学校バスケットボール 新人大会		ベスト4			
陸上競技部	第73回奈良県高等学校総合 体育大会 陸上競技の部	男子400mH	1位	J 1	西谷 真人	
		男子やり投	3位	J 7	岡本 爽楽	
		女子三段跳	3位	J 9	鹿島 七星	
		女子 4×400mR	2位	F 4 J 8 J 5 J 9	田中 優 竹内 嵯恵 山本 千尋 山口 祐実	
	第71回奈良県高等学校駅伝 競走大会	男子総合の部	6位	J 1 J 1 J 5 F 1 J 6 J 6 F 6	岩井智也 田中晴 高橋寛起 新本剛士 河野優輝 三木大佑 松岡康佑 鈴木	近畿大会出場
		男子区間の部 (第2区)	3位	J 1	高橋 晴	
	第36回奈良県高等学校駅伝 競走大会	女子総合の部	5位	J 9 F 4 J 5 F 2 J 7	田口 祐実 田中 優 山本 千尋 松田菜々 池田 晶帆	近畿大会出場
	第53回奈良県高等学校ユース 陸上競技対抗選手権大会	2年男子 400mH	1位	J 1	西谷 真人	近畿大会出場
		2年男子やり投	1位	J 7	岡本 爽楽	
		1年男子400m	3位	F 7	山口 悠太	
		1年男子棒高跳	2位	F 9	村中 春友	
		男子共通 4×100mR	2位	J 4 J 1 F 9 J 6	井内 貴大 西谷 真人 河井 陽 大田 直樹	
		男子共通 4×400mR	6位	J 5 F 7 J 5 J 1	石本 修司 山口 悠太 新本 寛起 西谷 真人	
		2年女子走幅跳	2位	J 9	鹿島 七星	
		2年女子三段跳	3位	J 9	鹿島 七星	
1年女子800m		2位	F 4	田中 優		
女子共通 4×400mR		5位	F 3 F 4 J 5 J 9	東口 七彩 田中 優 山本 千尋 山口 祐実		
テニス部	第18回近畿公立高等学校テ ニス大会	女子の部	初日 ブロックA 第3位	J 7 J 2	高岡 千笑 清水 ころ	
			最終日 3位ブロック 第3位	J 2 J 5 J 7 J 8 J 9 F 2 F 7	森本 響佳 藤井 彩衣 中原 葵 阿部 美波 堀内 七虹 北 優美 山下 夏未	
	奈良市高校新進テニス大会	女子ダブルス	第3位	J 8 J 7	阿部 美波 高岡 千笑	
		女子シングルス	第3位	J 8	阿部 美波	
弓道部	第39回全国高等学校弓道選 抜大会兼第28回近畿高等学 校弓道選抜大会県予選	男子個人	第6位	J 2	蒲田 将隆	近畿大会出場
アーチェリー部	令和2年度奈良県高等学校 アーチェリー選手権大会	女子個人	第3位	J 4	濱崎 知紗	
野球部	令和2年度奈良県高等学校 野球連盟優秀選手			S 6	植田 剛駿	
ソフトテニス部	令和2年度奈良県高等学校 ソフトテニス新人大会 兼 近畿インドア大会奈良県予選	男子団体の部	第5位	J 4 J 5 J 8 J 5 J 7 F 8 F 1 F 8	森 厚樹 吉本 明 安岡 誉起 山田 将太 萩原 康介 竹本 權生 井上 敦生 植田 竣也	

思い出の学び舎写真集



思い出の学び舎
プロジェクト始動!

思い出の学び舎写真集
公開のお知らせ

本校卒業生にご協力いただき、「宝相華会ホームページ」に旧校舎および現校舎(1967年～)の写真、さらには旧校舎配置図が掲載されました。懐かしい学び舎の様子を、ぜひお楽しみください。

宝相華会ホームページ

<https://housouge.jp/>

メニュー

母校の今と昔

思い出の学び舎写真集



写真閲覧には会員登録が必要です。
トップページ「会員登録」より、
メールアドレスとパスワードを入力してください。



ログインページ



ユーザー登録



現校舎と旧校舎の写真が多数ございます。どうぞお楽しみください。

ご協力くださった皆様、誠に有難うございました。

- 写真提供・撮影ご協力:スミヤマ写真館 隅山佳洋さま(昭和43年卒)、松山佐保さま(平成9年卒)
- 旧校舎情報提供・編集ご協力:高宮晋一さま(昭和35年卒)、松田親典さま(昭和35年卒)
- 旧校舎配置図製作:山田進一さま(昭和44年卒)
- サイト作成:山下成人さま(昭和55年卒)

「学び舎映像記録」有志実行メンバー:梶原、喜多、北原、佐藤、安田(平成元年卒)